

## 食料経済学特論Ⅱ (2単位)

担当者氏名 高柳長直

### ◆学習・教育目標

経済のグローバル化が進行している中で、フードシステムや我々の食生活は大きく変化してきた。先進国を中心に、農産物や食品の貿易が拡大し、消費者と生産者との間の空間的距離や社会的隔絶は大きくなっている。それとともに、伝統的な食生活から、アグリビジネスや外食企業などが提案する食生活に変化した。その結果、健康問題、地域格差、安全性、食文化の喪失、食習慣の乱れなど、数々の問題に直面している。この授業では、このような課題に対し、経済学的・地理学的観点から、受講生が幅広い知識を身に付けるとともに、論理的に議論を構築することができるようになることを目標とする。

### ◆取り扱う領域（キーワードで記載）

食料問題	食品流通	食品産業	食料消費
アグリビジネス	マーケティング	法制度	食文化

### ◆授業の進行等について

	テーマ	内容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1	食料問題の地理学	目的と授業の進め方	導入
2	地図の作成法	主題の読み方、作成法について理解する	地図の理解
3	"		主題図の作成
4	産地の形成	農産物産地の形成、集積のメリット、立地条件、地域ブランドについて議論する	レジュメの作成
5	"		"
6	"		"
7	都市化と食料経済	都市化に伴う食料問題の変化と課題について議論する	"
8	"		"
9	国際化と食料問題	国際化に伴う食料問題の変化と課題について議論する	"
10	"		"
11	食品産業	食品産業の立地、その現代的課題について議論する	"
12	"		"
13	食品流通・外食産業	小売店や外食店舗の立地、流通上の現代的課題について議論する	"
14	"		"
15	まとめ		復習

### ◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

授業の最初に指示する

### ◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

フードシステムの空間構造論／高柳長直／筑波書房（2006）

### ◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

課題のプレゼンテーション 30%、授業中のディスカッション 70%

### ◆その他受講上の注意事項

授業の進行については一例であり、具体的には最初の授業時に受講者と相談の上、決定する。